

野蒜復興新聞

野蒜地区復興協議会 総会

二十五年度事業報告 二十六年度事業計画



6月1日、平成26年度野蒜地区復興協議会総会が野蒜市民センターで開催されました。このたびの議案は4項目で、①25年度の事業報告と収支決算報告②協議会の体制変更に伴う規約改正について③名称変更した野蒜北部丘陵復興協議会役員を選任について④26年度の事業計画案と収支予算案について。①から④までの議案それぞれ説明を受け、すべて承認されました。

大きな変更点としては、組織名が「野蒜地区復興協議会」から「野蒜北部丘陵復興協議会」へ、構成する部会が5部会（復興部会／医療福祉部会／産業振興部会／教育施設部会／高台移転部会）から2部会（高台移転部会／災害公営住宅部会）へと変更になった部分です。このたびの体制変更にもない、

事業に特化した形で協議していきます。

一方でこれまでの復興部会／医療福祉部会／産業振興部会／教育施設部会は、1つにまとまった形で、震災前から活動している野蒜まちづくり協議会の1専門部会（復興部会）として活動していくことが、去る3月29日の野蒜まちづくり協議会総会で決定しています。今後は「野蒜まちづくり協議会復興部会」、そして「野蒜北部丘陵復興協議会高台移転部会」共に情報共有と連携をとりながら野蒜全体のまちづくりを推進してまいります。



まちづくり協議会 復興部 再始動

6月23日に野蒜まちづくり協議会の第1回目の復興部会が開催されました。上記でも説明しましたが、これまでの約一年半は野蒜地区復興協議会の専門部会として活動してきました。今後は野蒜まちづくり協議会の専門部会として協議してまいります。

第1回目の復興部会では、平成24年の7月に復興部会が発足してからこれまでの経緯を確認しました。また今後部会をとりまとめるべく部長や副部長の選任について協議し、復興部会長と副部長が共に選出されました（後日改めてご紹介させていただきます）。

今後はこれまでの地域が抱える課題を再度整理し、優先事項を定め復興部会（現在24名）、関係者と協力して課題解決に向けて取り組んでまいります。

野蒜地区復興協議会

名称・体制変更

野蒜北部丘陵復興協議会



平成26年6月1日の野蒜地区復興協議会総会において、組織名称を新たに野蒜北部丘陵復興協議会へと変更し、高台移転部会と災害公営住宅部会を専門部会とした新たな協議会となりました。発足にあたり協議会会長に選任いただきましたが、これまでは高台移転部会員として活動してまいりました。「震災復興のモデル地区」として老人子供達が元気で安全に生活できるまちづくりを理念に、今後関係者と協力しながら、懇談会など会員皆様と意思疎通を図り活動してまいります。また野蒜まちづくり協議会と調整を行いながら、野蒜地区の震災復興に取り組んでいきたいと考えておりますので、会員皆様の御協力をお願いいたします。

野蒜北部丘陵復興協議会
会長（兼 高台移転部会長）
齊藤均

あの日、消防団活動をしていて、最後に体育館に入り、そこで先に避難していた母と津波に飲み込まれ自分は2、3分後に、母は30分後位に助かった。今現在仮設暮らしで「今日を生きています」。亀岡で生まれ野蒜に育った自分は今までもあまり地元のことを深く考えなかつたのですが次の朝に変わり果てた地区を見てせつなく助かつた命、自分が何か役に立てないか・・・とあれから3年以上過ぎました。そんな時今回の災害公営住宅部会長に選任いただき、若輩者ですが少しでも故郷の役に立てるならと引き受けさせていただきました。私は災害公営住宅の最後の入居予定エリア希望であります。高台に移り住む街は全てゼロからのスタートで、抱える諸問題が多くあります。市役所や関係機関と共に連携し「明日を生きる」ため、皆で住む街は皆で作っていきましよう。自分の地元への最初で最後の恩返しのためにも、後で仕事を二の次にして・・・の気持ちで努めたいと思っております。皆さんの御協力、御意見が必要不可欠であります。どうぞよろしくお願いいたします。

野蒜北部丘陵復興協議会
副会長（兼 災害公営住宅部会長）
齋藤剣一



野蒜北部丘陵

まちづくり説明会

低層住宅地区

6月19、22日にかけて「野蒜北部丘陵復興協議会まちづくりルール説明会」が開催されました。防災集団移転促進事業で住宅を再建される方へ、これまで部会で協議してきたまちづくりルールの説明、各種補助金の移転先の区画利用の考え方についての説明です。担当からわかるところは説明がわかりやすく説明が抱える疑問点などを解消する時間があります。

観光交流拠点へ ファミリーマート



旧野蒜駅舎が観光交流拠点として整備され、深緑色（特別名勝松島の景観に配慮）のファミリーマートが5月29日にオープンしました。一階部分西側がファミリーマート、東側はテーブルとイスが準備され、交流・憩いのスペースとしてくつろげるように工夫されています。壁には周辺の被災や復興状況の写真が展示してあり、二階部分は多目的スペースとして活用する予定です。7月以降の完成にむけ整備をすすめています。